

委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成、行数は任意で追加)

委員会名	産業建設常任委員会
参加委員 ◎委員長、○副委員長	◎齋藤 仁一 ○山口 文章 菊地 とも子 後藤 誠司 齋藤 勤一郎 佐藤 忠孝 渡部 勇一

1 本市の課題と視察の目的

本市商業振興ビジョンにおいて、人口対策、市民所得の向上、観光都市の推進、風評の払しょくを全市的課題に掲げている。観光分野においてはコロナ禍からの回復による対応やインバウンドも課題の一つである。

高知市は、中心市街地活性化基本計画を策定し、中心市街地の現状分析、第二期計画の実施状況と取組評価、中心市街地活性化の課題を整理し、基本方針を「暮らしたいまち・働きたいまちの実現」、「訪れたくなるきっかけづくり・滞在したくなる仕組みづくり」としている。特に数値目標では、中心市街地の居住人口、社会増減数、商店街の営業店舗数、新規出店数、歩行者通行量、空き店舗率、拠点施設入館者数、宿泊者数ごとにきめ細かな設定をしている。本市商店街、商工関係の持続的な発展の参考とするため研修を実施した。

2 実施概要

実施日時	視察先	高知県 高知市
令和5年7月21日(金) 8時58分～10時45分	担当部局	商工観光部 観光魅力創造課 " 商業振興・外商支援課
視察項目	高知市中心市街地活性化基本計画について	
報告内容	<p>1 高知市中心市街地活性化基本計画について</p> <p>平成27年度から第一期計画が策定された。令和5年度には第三期計画が始まり、基本コンセプトを「暮らす・働く・訪れ遊ぶ 魅力共創の『おまち』へ」として、質の高い中心市街地の形成を目指す。</p> <p>※おまちとは、自分たちのまちに敬意を込めて地元の人々が呼ぶ。</p> <p>2 高知市中心市街地の現状</p> <p>市全体の人口は減少しているが、中心市街地の人口は平成26年度を底に増加に転じている。また、中心市街地商店街の空き店舗率は令和2年に増加に転じている。中心市街地に多くの行政施設、文化施設等が集積しており、近年では県立図書館と市立図書館合築のオーテピアが平成30年7月に開館、新庁舎として令和2年1月に高知市役所本庁舎の供用が開始された。交通は、中央公園の地下駐車場をメインに年間の利用台数(街の入り込み数)を基準数値とした場合、平成30年は36万台でピークとなったが、人手の減、コロナの影響で、令和2年から大幅に減少している。17地点において歩行者通行量調査をし、令和元年と平成28年の数字を比較すると、17地点中8地点が20%以上の増加をしているが、令和2年以降は大幅に減少している。地価については、直近5年間で下落幅が縮小し、地価が上昇した地点も存在していることから、一旦下げ止まっている状況である。</p> <p>3 第三期計画における主な事業</p> <p>(1) 市街地の整備改善のための主な事業(ハード事業)</p> <p>ア 藤並公園整備事業</p>	

	<p>イ オーテピア西敷地利活用事業 ウ シェアサイクル事業</p> <p>(2) 都市福利施設を整備する事業 ア 地域子育て支援拠点事業 イ まちなか市民健康づくり事業</p> <p>(3) 居住環境向上のための事業（ハード事業） 移住・定住促進事業</p> <p>(4) 経済活力向上のための事業 ア 中心市街地ナイトタイムエコノミー推進事業 イ 商店街イベント事業 ウ 空き店舗を活用した創業支援サポート事業 エ 中心市街地空き店舗ツアー事業 オ 高知大丸「OMACHI360（おまちさんろくぜろ）」の展開 カ 中心商店街お買い物マッチング事業</p> <p>4 インバウンド事業</p> <p>インバウンド観光を推進するためには、高知市単体の活動では限界があると分析、全ての市町村が含まれた連携中枢都市圏の仕組みを使い、観光案内所を構え、外国語対応スタッフを配置している。観光パンフレットに関しては、海外の大型客船の場合、その度に全部配ると割に合わないため、紙からデジタル主体の、例えばQRコードだけ置いてそれで見えていただくような方法を進めていくことも考えている。商店街の店舗がイベント時期に合わせて、海外の方が求められるものをピンポイントで提供していくためには、それぞれの店のやる気が課題である。</p>
<p>考 察 (まとめ)</p>	<p>喜多方市とは人口規模、県都などの違いはあるが、具体的な数値目標を立てて事業に取り組んでいることは評価できる。殊に、ノーパンクタイヤを使ったシェアサイクル事業については、市内でも蔵めぐりや観光回遊等の活用に期待したい。</p> <p>また、経済活力の向上のための事業では、商店街イベント事業、空き店舗創業支援サポート事業、空き店舗ツアー事業、公共交通利用促進事業、バス路線再編事業、インバウンド観光推進事業などが展開されている。喜多方市の空き店舗対策でも、積極的な事業とするために空き店舗ツアー事業などは参考になると感じた。また、公共交通網の整備は重要な課題であると再認識できた。さらに、今後インバウンドによる観光客の増が見込まれるので喜多方市も多言語による案内や接遇等の対策を講じる必要がある事も課題であると認識をした。</p>

